

奈良女子大学

【N060 奈良女子大学】

	奈良女子大学 理学分野
学部等の教育研究 組織の名称	理学部（第1年次:175 第3年次:10） 大学院人間文化研究科（M:180 D:50）
沿革	明治41（1908）年 奈良女子高等師範学校設置 昭和24（1949）年 新制奈良女子大学理家政学部設置 昭和28（1953）年 理学部設置（改組） 昭和40（1965）年 大学院理学研究科修士課程設置 昭和56（1981）年 大学院人間文化研究科博士課程設置 平成10（1998）年 大学院人間文化研究科区分制博士課程設置（改組）
設置目的等	<p>奈良女子大学の母体である奈良女子高等師範学校は、女子教員の養成を目的として明治41年に設置された。</p> <p>新制国立大学の発足時には、奈良女子高等師範学校は奈良女子大学文学部と理家政学部として承継され、昭和28年、理家政学部は理学部（数学科・物理学科・化学科・生物学科）と家政学部に分離した。</p> <p>その後平成3年に情報科学科が設置され、平成8年の改組で現在の5学科（数学科・物理科学科・化学科・生物科学科・情報科学科）体制となった。</p> <p>昭和40年に、広い視野に立って専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要の高度の能力を有する人材の育成を目的に理学研究科（修士課程：数学専攻・物理学専攻・化学専攻・生物専攻）が設置された。</p> <p>昭和56年に、研究者として自立して研究活動を行うに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識をもつ人材の育成を目的に人間文化研究科（博士課程）が設置された。</p> <p>平成10年に、豊かな人間性と高度な知識を備えた人材の養成を目的に理学研究科（修士課程）と人間文化研究科（博士課程）を再編し人間文化研究科（博士前期課程：数学専攻・物理科学専攻・化学専攻・生物科学専攻・情報科学専攻と博士後期課程）が設置され、平成15年には後期課程に現在の複合現象科学専攻と共生自然科学専攻が設置された。</p>
強みや特色、 社会的な役割	奈良女子大学は、母体とする奈良女子高等師範学校時代から伝統的に日本全国から学生を受入れてきており、「男女共同参画社会をリードする人材の育成」や「教養教育、基礎教育の充実と専門教育の高度

化」など大学の基本理念に沿って、理学分野では、高いレベルの基礎科学の研究活動と教育活動を通して社会の発展に貢献することを目指し教育、研究、国際交流、社会貢献等に取り組んできたところであり、以下の強みや特色、社会的な役割を有している。

- 理学分野は、高いレベルの物理学の研究をはじめ、基礎科学の教育・研究活動を通じて、広い視野にもとづく問題発掘・問題解決能力を持ち、次世代の課題にリーダーシップを発揮することのできる教養豊かな女性を育成する役割を果たし、研究科博士前期課程は、更にその素養を磨くとともに、専攻分野における研究能力又は高度な専門性を要する職業等に必要な能力を備えた女性人材養成の役割を果たす。博士後期課程は、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な研究能力及びその基礎となる豊かな学識を備えた女性人材を養成する役割を果たす。
- 高いレベルの物理学の研究をはじめ、理学諸分野の教育・研究活動を通じて、これまで多くの理系女子ならびに理系分野の女性高度専門職業人を社会に輩出してきた伝統と実績を生かし、今後も我が国の社会の発展に寄与する。またグローバル化の急激な進展等の社会構造の変化を踏まえ、大幅な改組を実施し、より広い視野や多様な価値観をもつ人材を育成する。
- 素粒子原子核宇宙や物性等の基礎物理学，有機・無機複合体等に関連した分子科学，発生生物学等の基礎生物学分野等の研究実績と国際的に水準の高い高エネルギー物理学の研究実績を生かし、理学諸分野の研究を推進し、これを人材育成に生かすとともに我が国の理学の発展に寄与する。
- 多くの理系女子ならびに理系分野の女性高度専門職業人を供給してきたこれまでの実績を生かした社会貢献に加え、奈良県をはじめとする周辺地域における高大連携活動、各種科学関連行事、出前授業、公開講座等の実施など、地域へ貢献してきたこれまでの実績を生かし、学術の進展や地域の科学的知見の普及に寄与する。
- 高校教員や理系技術系社会人の学び直しや学位取得のため社会人特別選抜等を実施して適性ある者に大学院への門戸を開き、地域社会の高度化・活性化に資する。